

平成27年度JA共済の運用益の使途について

平成27年1月

JA共済の運用益事業について（平成27年度）

主な変更点

合計額：1,553,335千円（6,665千円（0.4%）減）

新規

- 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施**（27年度（新規）：6.5百万円）
 ...夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図るため、反射材フェアに協賛する。
 （主催：（一財）全日本交通安全協会、後援：警察庁（予定））

事故防止

拡充

- 生徒向け自転車交通安全教室の充実**（26年度：157.5百万円→27年度：162百万円）
 ...全国各地で、生徒が交通事故の実演（スタントマン）により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催し、交通事故の防止を図る。平成27年度は、自転車事故による危険（被害者・加害者両方）について、知識を深めるための学習チラシを新たに作成し、参加生徒に配付する。

事故防止

縮減

- 救急医療機器等購入費補助**（26年度：470百万円→27年度：460百万円）
 ...厚生連病院等の地域中核医療機関に対する、救急医療機器等購入費用の一部助成。救急医療機器の整備が一定進んだこと等を考慮し減額する。

救急医療

【予算の推移】

（単位：百万円）

平成25年度	平成26年度 (a)	平成27年度（案） (b)	増減額 (b-a)	増減率(%)
1,559	1,560	1,553	▲6	▲0.4

自賠責共済運用益拠出事業（詳細）

1. 自動車事故防止対策

（単位：千円）

事業の内容(平成27年度(案))	【 】内は事業主体	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 全国のJA等で交通安全運動期間中に同運動ポスターを掲示し交通事故防止を図る。【内閣府他】		1,000	964	1,000	1,000	0	0.0
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 シートベルト・チャイルドシート着用促進の広報活動等により交通事故防止を図る。 【シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会】		1,000	1,000	1,000	1,000	0	0.0
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 自動車点検整備推進運動に協賛し交通事故の防止を図る。【自動車点検整備推進協議会】		500	500	500	500	0	0.0
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 一般を対象に交通安全スローガンおよび当該スローガンを使用したポスターを募集、優秀作品を活用した啓発活動を実施し交通事故の防止を図る。【毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会】		2,700	2,625	2,700	2,700	0	0.0
(5) 全日本交通安全協会の支援 交通安全に関する広報活動、交通安全表彰、交通安全教育の推進等を実施する(一財)全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。【(一財)全日本交通安全協会】		2,000	2,000	2,000	2,000	0	0.0
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施<新設> 夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図るため、反射材フェアに協賛する。【(一財)全日本交通安全協会(後援予定：警察庁)】		/	/	/	6,500	6,500	-
(7) JA共済交通安全ポスターコンクールの実施 全国の小・中学校の生徒を対象に交通安全ポスターを募集、優秀作品を表彰。優秀作品を活用した啓発活動を実施し、交通事故の防止を図る。【JA・JA共済連(後援申請：内閣府、警察庁、文部科学省)】		145,000	144,298	145,000	145,000	0	0.0
(8) 幼児向け交通安全教室の実施 全国各地で、幼稚園・保育園とその保護者を対象とした交通安全教室を通じて、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連(後援申請：内閣府、警察庁、国土交通省)】		187,000	187,000	187,000	187,000	0	0.0
(9) 高齢者向け交通安全教室の実施 運転シミュレーション機器搭載車両、敏捷性測定等の高齢者向け交通安全教室を通じ、高齢者の交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連】		290,000	289,725	290,000	290,000	0	0.0
(10) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 全国各地で、生徒が交通事故の実演(スタントマン)により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催し、交通事故の防止を図る。【JA共済連(予定：都道府県警察)】		120,000	120,000	157,500	162,000	4,500	2.8
小 計		749,200	748,114	786,700	797,700	11,000	1.3

2. 救急医療体制の整備

(単位：千円)

事業の内容(平成27年度(案))	【 】内は事業主体	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1)救急医療機器等購入費補助 地域の救急医療を担う厚生連病院等に対して救急医療機器等購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。 全国の厚生連病院111病院のうち、101病院が救急告示を、22病院がへき地中核・医療拠点病院指定を受けている。【厚生連病院他】		500,000	491,825	470,000	460,000	▲ 10,000	▲ 2.1
(2)救急ヘリ普及推進活動の支援 救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。 【認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク】		5,500	5,500	5,500	5,500	0	0.0
小 計		505,500	497,325	475,500	465,500	▲ 10,000	▲ 2.1

3. 自動車事故被害者対策

(単位：千円)

事業の内容(平成27年度(案))	【 】内は事業主体	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 自賠責制度周知活動の実施 自賠責制度周知活動を通じて、自賠責共済・保険の未加入車両を解消し、被害者救済を図る。 【国土交通省他】		4,000	3,460	4,000	4,000	0	0.0
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通事故紛争処理センター】		66,000	65,193	60,000	68,053	8,053	13.4
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 交通事故法律相談を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)日弁連交通事故相談センター】		23,000	22,500	22,500	20,000	▲ 2,500	▲ 11.1
(4) 介助犬の普及支援 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及活動を支援し、被害者救済を図る。 【NPO法人日本介助犬アカデミー・(社福)日本介助犬協会・JA・JA共済連】		70,800	70,800	70,800	70,800	0	0.0
(5) 交通事故医療研究の支援 交通事故医療に関する研究を公募のうえ選定した医療研究25件に助成し、交通事故医療の進歩に寄与することを通じて被害者救済を図る。【公募】		25,000	25,000	25,000	25,000	0	0.0
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児等育成基金を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児等育成基金】		12,000	2,693	6,500	2,282	▲ 4,218	▲ 64.8
(7) (公財)交通遺児育英会の支援 交通遺児の修学を援助する(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児育英会】		10,000	10,000	10,000	10,000	0	0.0
(8) 交通事故被害者に対する情報提供支援 交通事故被害者およびその家族に対する情報提供を支援する。 【JA共済連】				5,000	5,000	0	0.0
小 計		210,800	199,646	203,800	205,135	1,335	0.6

4. 後遺障害認定対策

(単位：千円)

事業の内容(平成27年度(案))	【 】内は事業主体	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 外傷性頸部症候群の解剖学的基盤構築に関する研究の実施 <3年計画の3年目> 解剖実習体を用い、神経根部の構造および神経根部からの髄液吸収経路に関し、同経路と神経周膜移行部の関係を解析し、後遺障害認定に資する。【(一社)JA共済総合研究所医療研究研修部】		11,000	11,000	11,000	11,000	0	0.0
(2) 脊柱外傷に起因する運動障害評価に関する検討の実施 <3年計画の3年目> 交通外傷後の手術による脊椎固定術や骨折などの器質的障害により、どの程度の障害でどの程度の脊柱可動域が損なわれるかを検討する。また、年齢変化と脊柱可動域の関連をふまえ、外傷後の脊柱可動域制限の参考データを提示することにより、後遺障害認定に資する。 【(一社)JA共済総合研究所医療研究研修部】		14,000	14,000	14,000	14,000	0	0.0
(3) 脳外傷による高次脳機能障害と意識障害の関連分析の実施 <終了> 日本脳神経外傷学会データベースの蓄積データから高次脳機能障害残存症例を抽出し、意識障害の時間と高次脳機能障害の発症頻度について検討する。また、追跡可能な症例について、慢性期における画像診断と神経心理学的評価を行い、意識障害と高次脳機能障害の程度、日常生活復帰状況を検討し、後遺障害認定に資する。 【(一社)JA共済総合研究所医療研究研修部】		9,000	9,000	9,000	/	▲ 9,000	▲ 100.0
小 計		34,000	34,000	34,000	25,000	▲ 9,000	▲ 26.4

5. 医療費支払適正化対策

(単位：千円)

事業の内容(平成27年度(案))	【 】内は事業主体	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 医療分野研修等の実施 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。 【(一社)JA共済総合研究所医療研究研修部】		60,000	59,999	60,000	60,000	0	0.0
小	計	60,000	59,999	60,000	60,000	0	0.0

※ 1. 自動車事故防止対策、2. 救急医療体制の整備、3. 自動車事故被害者対策、4. 後遺障害認定対策 および5. 医療費支払適正化対策の合計金額

(単位：千円)

	平成25年度 計画額	平成25年度 実績額	平成26年度 計画額 (a)	平成27年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)	
合	計	1,559,500	1,539,085	1,560,000	1,553,335	▲ 6,665	▲ 0.4

自賠責共済運用益拠出額の推移

(単位：千円)

年度 拠出項目	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度(案)		
	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)
1. 自動車事故防止対策	434,300	32,100	7.9	510,200	75,900	17.4	749,200	239,000	46.8	786,700	37,500	5.0	797,700	11,000	1.3
2. 救急医療体制の整備	1,013,000	0	0.0	813,000	▲ 200,000	▲ 19.7	505,500	▲ 307,500	▲ 37.8	475,500	▲ 30,000	▲ 5.9	465,500	▲ 10,000	▲ 2.1
3. 自動車事故被害者対策	236,100	3,100	1.3	224,926	▲ 11,174	▲ 4.7	210,800	▲ 14,126	▲ 6.2	203,800	▲ 7,000	▲ 3.3	205,135	1,335	0.6
4. 後遺障害認定対策	34,000	0	0.0	34,000	0	0.0	34,000	0	0.0	34,000	0	0.0	25,000	▲ 9,000	▲ 26.4
5. 医療費支払適正化対策	60,000	0	0.0	60,000	0	0.0	60,000	0	0.0	60,000	0	0.0	60,000	0	0.0
合計	1,777,400	35,200	2.0	1,642,126	▲ 135,274	▲ 7.6	1,559,500	▲ 82,626	▲ 5.0	1,560,000	500	0.0	1,553,335	▲ 6,665	▲ 0.4

(注) 拠出額とは、年度初期の予定額であり、実績額ではない。

平成25年度自賠責共済運用益拠出事業の内容

1. 自動車事故防止対策

補助対象事業者 【実績額】	補助対象事業の内容（概要）	備 考
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 【 964千円】	<p>★ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛。春および秋の全国一斉交通安全運動ポスターを全国のJAおよび関連団体に配布、全国各地で運動期間中に掲示。（春18,600枚、秋18,600枚）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施。
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 【1,000千円】	<p>★ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の着用推進運動に協賛し、交通事故の防止・軽減を図る。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会（内閣府、文部科学省、警察庁、国土交通省および自動車関連団体等で構成、（一財）日本交通安全教育普及協会が事務局）のシートベルト・チャイルドシート着用推進運動に協賛。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用必要性等の啓発広報活動</p> <p>○ 適切な選定・装着促進のためのチャイルドシート指導員養成研修会の開催支援</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施。
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 【500千円】	<p>★ 自動車点検整備推進協議会の自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 自動車点検整備推進協議会（国土交通省および自動車関連団体で構成）の自動車点検整備推進運動に協賛。</p> <p>○ 自動車の点検整備の必要性と重要性を啓発するイベント等を開催</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施。
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業の協賛 【2,625千円】	<p>★ 毎日新聞社・（一財）全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 毎日新聞社・（一財）全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛。</p> <p>○ スローガン応募数：70,881点</p> <p>○ ポスター応募数：4,492点</p>	<p>○ スローガン、ポスターの大賞作品を選定する審査会に出席。</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施。</p>
(5) （一財）全日本交通安全協会の支援 【2,000千円】	<p>★ 交通安全事業を行う（一財）全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 第54回交通安全国民運動中央大会を開催（1月）し、全国の交通安全功労者や無事故運転者等を表彰、交通事故防止活動の徹底などの諸対策を国民運動として強力に推進する大会宣言を採択。</p> <p>○ 春の全国交通安全運動（5月）、秋の全国交通安全運動（9月）を関係省庁・団体と共催。</p> <p>○ 交通安全教育の推進。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施。

(6) 交通安全ポスターコンクールの実施 【144,298千円】	<p>★ 小中学生対象の交通安全ポスターコンクールを実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 25年度で第42回。全国の小・中学校の生徒を対象に交通安全ポスターを募集し、優秀作品を表彰。全国各地で優秀作品の展示会を開催。</p> <p>○ 応募数 7,347校（小学校5,872校、中学校1,475校）、161,663点（小学校122,532点、中学校39,131点）</p> <p>○ 内閣府特命担当大臣賞3点、農林水産大臣賞3点、警察庁長官賞3点、文部科学大臣奨励賞3点</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施。
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 【187,000千円】	<p>★ 幼児対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 全国各地で、幼児がミュージカル形式で交通安全知識を学ぶ交通安全教室を開催。（32回開催、合計約17,527名（保護者を含む）参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(8) 高齢者向け交通安全教室の実施 【289,725千円】	<p>★ 高齢者対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 全国各地で、高齢者向けプログラム（交通安全講話、身体機能の衰えに関するビデオ鑑賞や敏捷性測定等）による高齢者対象の交通安全教室を開催。（174回開催、21,591名参加）</p> <p>○ ドラビングシミュレーターによる、巡回型高齢者向け交通安全教室を開催（271回開催、6,521名参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(9) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 【120,000千円】	<p>★ 交通事故未然防止に必要な知識や技能の習得の促進を図る。</p> <p>○ 危険な自転車走行に伴う交通事故の実演（スタントマン）により、生徒に危険性を疑似体験させるスクエアード・ストリート教育技法による自転車交通安全教室を警察等と連携し開催した。（114回開催、64,590名参加）</p>	○ 現地視察を実施。 ○ 警察関係者へのヒアリングを実施

2. 救急医療体制の整備

補助対象事業者 【実績額】	補助対象事業の内容（概要）	備 考
(1) 救急医療機器等購入費補助 【491,825千円】	<p>★ 地域の救急医療を担う病院に対して救急医療機器等購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 47病院に対する救急医療機器購入費補助（467,884千円） 旭川厚生、帯広厚生、札幌厚生、網走厚生、倶知安厚生、かつの厚生、北秋田市民、秋田組合総合、由利組合総合、仙北組合総合、平鹿総合、埴厚生、総合病院土浦協同、上都賀総合、佐野厚生総合、熊谷総合、久喜総合、伊勢原協同、富士見高原、小諸厚生総合、鹿教湯三才山リハビリテーション鹿教湯、魚沼、長岡中央総合、三条総合、柏崎総合医療センター、厚生連高岡、中濃厚生、西美濃厚生病院、リハビリテーション中伊豆温泉、海南、尾西、松阪中央総合、鈴鹿中央総合、菰野厚生、いなべ総合、尾道総合、吉田総合、周東総合、長門総合、小郡第一総合、阿波、屋島総合、滝宮総合、JA高知、福岡整形外科、大分県厚生連鶴見、鹿児島厚生連</p> <p>主な機器は、超音波診断装置・麻酔器などであり、検査時間の短縮、患者の苦痛軽減等、有効に活用されていることを事務局で確認している。</p> <p>○ 1病院に対する高規格救急車の購入費補助（22,000千円） 佐久総合</p> <p>○ 1病院に対するリハビリ機器購入費補助（1,941千円） 耳納高原</p>	○ 購入機器の写真等を添付した報告書を受領。
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援 【5,500千円】	<p>★ 認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワークの救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動費用を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 救急医療用ヘリの有効性と必要性を広く広報するための広報誌「HEM-Netグラフ」等を発行。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施。 ○ 救急ヘリの運営状況について現地視察を実施。

3. 自動車事故被害者対策

補助対象事業者 【実績額】	補助対象事業の内容（概要）	備 考
(1) 自賠責制度周知活動の実施 【3,460千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 自賠責制度周知活動を通じて、自賠責共済・自賠責保険の未加入車両を解消し、被害者救済を図る。 ○ 全国のJA等で秋の全国一斉交通安全運動期間を中心に、国土交通省作製のリーフレット（約77.3万部）・ポスター（約5.9万枚）を配布・掲示。 	○ 活動状況についてヒアリングを実施。
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 【65,193千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ (公財)交通事故紛争処理センターの自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、被害者救済を図る。 ○ 25年度の総相談件数は22,811件（前年度：24,498件）、このうち新受付件数8,176件（前年度：8,483件）、審査件数は773件（前年度：722件）、和解成立件数は7,285件（前年度：7,608件）。JA共済加入車両の相談等は428件 ○ 25年度と同センター運営費寄附金要請額（997百万円）に占める支援額（65百万円）の割合は6.5%。 	○ 活動状況についてヒアリングを実施。
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 【22,500千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故法律相談を行う（公財）日弁連交通事故相談センターを支援し、被害者救済を図る。 ○ 交通事故に関する示談斡旋および審査を実施。25年度のJA共済加入車両の相談等は示談斡旋（斡旋延べ日数）238日（前年度：277日）、審査11回（前年度：12回） 	○ 活動状況についてヒアリングを実施。
(4) 介助犬の普及支援 【70,800千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及を支援し、被害者救済に役立てる。 ○ 特定NPO法人日本介助犬アカデミーの活動状況 身体障害者補助犬育成補助事業など介助犬・補助犬に関する調査研究・講演等、介助犬・補助犬に関する啓発活動 ○ (社福)日本介助犬協会の活動状況 介助犬の育成・提供、介助犬の認知度向上のための講演会・イベント開催、介助犬利用者・希望者の相談 ○ 介助犬の認知度向上を図るための、デモンストレーション・ポスター等による広報活動。（後援：厚生労働省） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動状況についてヒアリングを実施。 ○ 介助犬デモンストレーションの現地視察を実施。
(5) 交通事故医療研究の支援 【25,000千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故医療の研究にかかる研究費の一部助成 ○ 重症頭部外傷（evacuated mass lesion）への開頭術前からの脳低温療法導入による脳保護効果の検討 末廣栄一（山口大学大学院 医学系研究科 脳神経外科学分野） ○ 重症外傷患者におけるthromboelastmetryを用いた凝固・線溶障害の評価と適切な輸血指針に関する研究 中村洋平（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 妊婦交通外傷に関する疫学研究 森川守（北海道大学病院 産科・周産母子センター） ○ 頭蓋内圧センサーの圧波形解析による脳コンプライアンスの研究：頭部外傷における重症管理および治療の適正化を目指して ○ 頭部外傷後の急性びまん性脳腫脹の病態解明 吉矢和久（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 交通外傷による骨盤骨折、股関節脱臼骨折の治療成績の検討（治療成績、長期機能予後、QOL、予後不良因子の評価・検討） ○ 頭部外傷後の脳浮腫進行におけるVascular endothelial growth factor (VEGF)、Matrix metalloproteinase-9 (MMP-9)の役割に関する臨床的検討 細見早苗（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 重症頭部外傷患者に対する新しい開頭外減圧術ヒンジ法の有効性に関する研究 狩野友昭（深谷赤十字病院 脳神経外科） ○ 地域網羅的解析に基づいた外傷患者に対する救急医療システムの構築に関する研究 田崎修（長崎大学病院 救命救急センター） ○ 交通外傷患者における深部静脈血栓症（DVT:Deep vein thrombosis）の予防法の開発 竹川良介（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 頭部外傷後の高次脳機能障害に対する経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を用いた治療効果の検討とその作用機序の解明 圓尾知之（大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経外科（脳卒中センター）） ○ 前庭誘発筋電位を用いた交通外傷後のめまいの病態解明と早期からの運動療法による治療 五島史行（独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 耳鼻咽喉科） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ JA共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象25テーマを選定。 ○ 各研究の成果については、学会発表、報告書提出等を求め、提出された報告書を「交通事故医療研究助成報告書集」に掲載。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 骨盤骨折に対する救命処置・手技の効果の検証と新規治療の開発 佐藤幸男（慶應義塾大学病院 救急科） ○ 脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経幹細胞移植治療後の腫瘍化に対する制御の検討 板倉剛（慶應義塾大学 医学部 整形外科） ○ 非骨傷性頸髄損傷の至適治療の検討 同損傷モデルから 善積哲也（横浜市立大学大学院 医学研究科 脳神経外科学） ○ 頭蓋内圧亢進症例における人工臓器を用いた持続血糖値測定の検討 古瀬元雅（大阪医科大学 脳神経外科学） ○ アルコール含有抗がん薬投与時の自動車運転動作への影響の検討 中村智徳（群馬大学大学院 医学系研究科 臨床薬理学分野） ○ 頭部外傷に伴う感覚器障害・耳鳴の心理的苦痛度の解析とリハビリテーションの確立 神崎晶（慶應義塾大学 医学部 耳鼻咽喉科） ○ 胸腹部外傷後の呼吸筋疲労にneurally adjusted ventilatory assist (NAVA) が及ぼす影響 藤村直幸（九州大学病院 救命救急センター） ○ 高齢ドライバーの運転適性評価ツールの開発:高齢ドライバー群における健常標準成績の確立を目指して 河野直子（名古屋大学大学院 医学系研究科 精神医学分野） ○ 高エネルギー外傷による粉碎骨折に対する再生医療技術を用いた治療法開発 赤羽学（奈良県立医科大学 健康政策医学講座） ○ 交通外傷事例の救命率向上を目的とする救急収容要請通話の正確・迅速化要因の検討 杉本なおみ（慶應義塾大学 看護医療学部） ○ 腕神経叢損傷再建手術後の運動機能・日常生活動作遠隔成績調査 坂本相哲（山口県厚生農業協同組合連合会 小郡第一総合病院 整形外科） ○ 重症頭部外傷および重症脳卒中患者の頭蓋内圧亢進に対するhinge craniotomyの検討 加藤晶人（川崎市立多摩病院 救急災害医療センター） ○ 重症外傷患者に対する急性期における間歇的経胃栄養投与（ボラス投与）の有用性とその機序の検討 若井聡智（独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター） 	
<p>(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 【2,693千円】</p>	<p>★ 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児育成基金を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 25年度の交通遺児の新規加入者は51名（25年度末の加入総数は1,005名）。 ○ 自治体等の相談窓口等を通じた基金制度の紹介等。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拠出団体（国やJA共済連等）の拠出分担割合にもとづく。 ○ 活動状況についてヒアリングを実施。
<p>(7) (公財)交通遺児育英会の支援 【10,000千円】</p>	<p>★ 交通遺児の教育機会均等を目的とする奨学金事業等の支援を目的とする(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 25年度の奨学生の新規採用者は480名（25年度の採用者合計は1,452名） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動状況についてヒアリングを実施。

4. 後遺障害認定対策

補助対象事業者 【実績額】	補助対象事業の内容（概要）	備 考
(1) 外傷性頸部症候群の解剖学的基盤構築に関する研究の実施 【11,000千円】	<p>★ 適正な支払査定に資するための外傷性頸部症候群の解剖学的基盤構築に関する研究</p> <p>○ 当研究は平成25年度から27年度にかけて3年継続で行うこととし、25年度は神経根部の顕微鏡を用いた解剖による形態的な解析、頸部領域の神経周膜移行部を採取して組織学的に解析を行い、研究手法の確立を行った。</p>	<p>○ 3年計画の1年目</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施。</p>
(2) 脊柱外傷に起因する運動障害評価に関する検討の実施 【14,000千円】	<p>★ 適正な支払査定に資するための脊柱外傷に起因する運動障害評価に関する検討</p> <p>○ 当研究は平成25年度から27年度にかけて3年継続で行うこととし、25年度は脊椎疾患のある者となない者の脊椎可動域測定を行い、計測の精度に関する検討を行った。また、既に同意を得てデータベース登録された一般対象者を男女各年齢層でランダム抽出し、脊柱可動域測定、X線画像撮影、日常生活状況アンケート、運動機能検査を行い、データのサンプリングを行った。</p>	<p>○ 3年計画の1年目</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施。</p>
(3) 脳外傷による高次脳機能障害と意識障害の関連分析の実施 【9,000千円】	<p>★ 適正な支払査定に資するための脳外傷による高次脳機能障害と意識障害の関連分析</p> <p>○ 当研究は平成25年度から26年度にかけて2年間の継続とし、日本脳神経外傷学会の重症頭部外傷データベースの蓄積データ等から高次脳機能障害残存症例を抽出、意識障害の時間と高次脳機能障害の発生頻度について検証した。また追跡可能な症例について、慢性期における画像診断と神経心理的評価を行い、意識障害と高次脳機能障害の程度、日常生活復帰状況を検討した。</p>	<p>○ 2年計画の1年目</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施。</p>

5. 医療費支払適正化対策

補助対象事業者 【実績額】	補助対象事業の内容（概要）	備 考
医療分野研修等の実施 【59,999千円】	<p>★ 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。</p> <p>○ 損害調査担当者を対象とした医療費応用コース、医療費検証担当者を対象としたメディカルコーディネーター基礎コース、応用コースの研修会を実施。研修会受講者は合計102名</p>	<p>○ 研修会の運営状況について現地視察を実施。</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施。</p>